

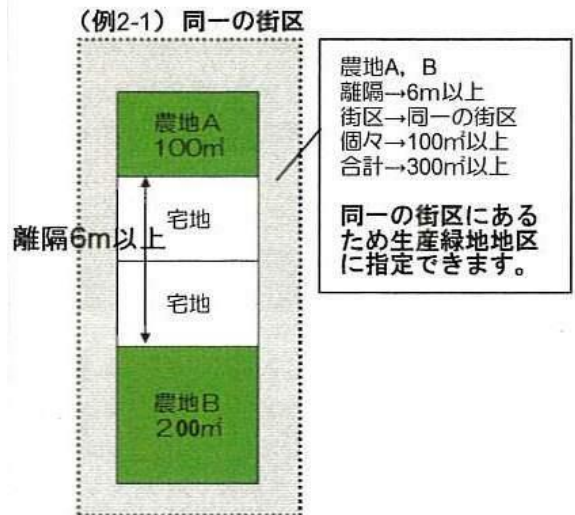
# 営農ウィークリーNEWS

## 水稲、野菜の栽培管理と生産緑地改正について講習会を開催～北部経済センター～

7月4日、岩倉支店2階会議室において、標記の講習会が行われ25人の参加がありました。①夏野菜の栽培管理や土作り・防虫ネットについてJA京都中央の荒木技術顧問より説明がありました。次に、②水稲の中期管理、出穂と穂肥の目安について京都乙訓農業改良普及センターの西畑正和主査の講習があり、熱心な質疑応答が行われました。その後、③京都市北部農業振興センターの丸田氏より生産緑地の改正について概要説明がありました。生産緑地の改正は営農に大きく関係することから、市街化区域内に農地を保有する組合員の方は内容を十分に確認することが重要です。最後に、④JAの中園エリア担当より、おすすめの肥料、農薬について説明があり、盛りだくさんの講習会が終了しました。



水稲の中干しや追肥について詳しく説明する西畑主査



同一街区であれば、6m以上離れていても生産緑地に指定できる（振興センター資料）

本年4月から生産緑地の面積要件が500㎡から300㎡に引き下げられました。また、一団の農地の解釈が、これまでの離隔6m以下に加えて、上図のように6m以上離れていても、同一街区や隣接する街区で各々が100㎡以上で合計面積が300㎡以上あれば指定が可能となりました。

\* 生産緑地改正関係の講習会の開催などについては営農販売課へご相談ください。

### —TAC information—

### 大雨により浸水、冠水した圃場の管理



今回、西日本を中心にこれまでに経験したことのないような大雨となり各地で、「大雨特別警報」が発表され、6日京都府においても「大雨特別警報」が発表されました。

浸水、冠水した圃場においては、土壌中の酸素が欠乏するため、根の呼吸が阻害され、根腐れ、茎葉の萎凋など、さまざまな症状が発生します。以下、対策例。1. 滞水している場合は、速やかに圃場の排水に努める。2. マルチ栽培では、マルチをめくり土壌表面の乾燥を促す。3. 退水後ただちに畑を清掃し、土が乾いた後根を傷めないように浅く耕運し通気性を確保する。4. 茎葉に泥の付着が多い場合、清浄な水や【殺菌剤】の散布により速やかに洗い流し、光合成の低下や病害の発生を防ぐ。（過去の農業技術情報より抜粋）



# 号外

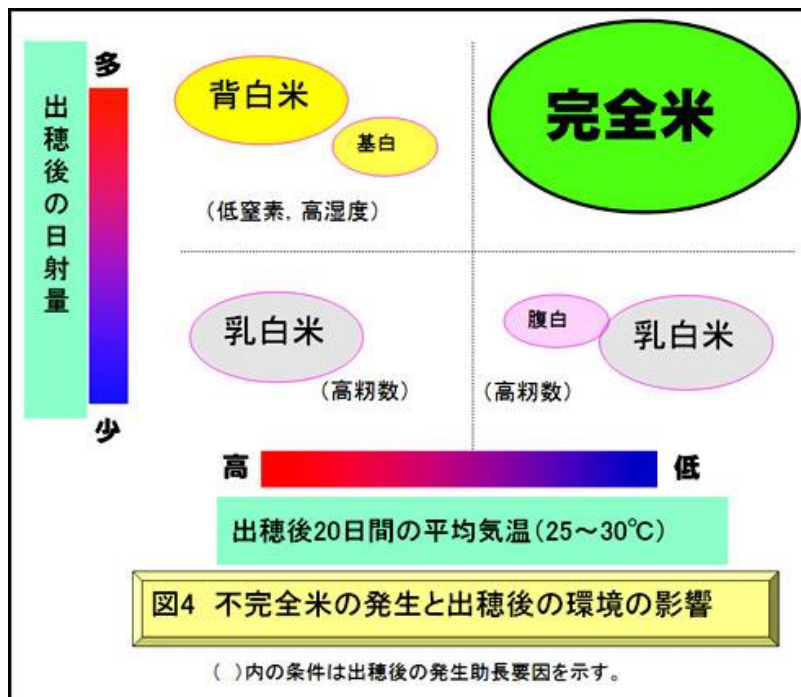
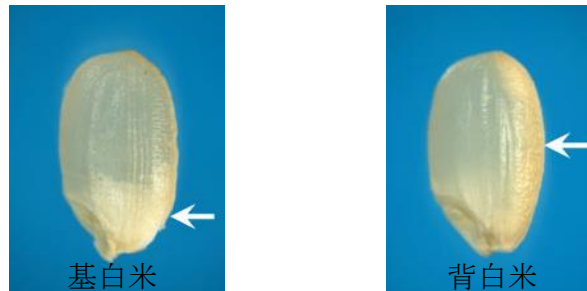
## 水稻高温障害対策のご案内

J A 京都中央 平成30年7月9日



### 《ヒノヒカリの高温障害》

「ヒノヒカリ」では出穂後20日間の平均気温が27℃以上で背白米、基白米が発生し、28℃以上で多発する。背白米、基白米、乳白米は、基本的に光合成が十分に行えないことに起因する。根張り充実のための対策、籾数が過剰にならない対策を行うことが必要。



「農業温暖化ネット」より

### 《高温障害の対策》

- 1 かけ流し灌漑を行う。
- 2 籾数過剰にならないよう1回目の穂肥を半分にする。一発肥料で元肥量が少く追肥をする場合は、追肥量を減らす。
- 3 ケイ酸カリを中干し前に、施用(40kg/10a)。6月5~10日植えの場合、出穂40日前で7月15~20日頃に施用すればよい。
- 4 出穂10~20日前のフジワン粒剤施用(4kg/10a)。効果「高温登熟下における白未熟粒の発生軽減」。発根促進による吸水量、光合成量の増大を図る。  
6月5~10日植えの場合、8月5~15日頃施用すればよい。